



Shihsanhang Museum  
Children Series IV

考古完全攻略



作者：邱千容、邱宝玲

イラスト：邱千容

日本語訳：陳鋼

The image features a hand holding a yellow book with a grid pattern. The book is tilted and positioned in the lower right quadrant. The background is a vibrant, multi-colored grid of squares in shades of orange, red, yellow, pink, purple, and grey. The hand holding the book is wearing a blue and white striped sleeve.

考古完全攻略





## 館長のまえがき

みなさんは十三行博物館に来て、土器のかけらや青銅器、ガラスのアクセサリ、そして人面土器を見ると、「古物たちはどうやってこの世に再現したのか」と思いませんか。考古学者たちはどのようにして埋もれた秘密を掘り出したのでしょうか。考古にはいったいどのようなタブーや、どのように気をつけるところがあるのでしょうか。

本書『**考古完全攻略**』とは、考古学の基礎を紹介する立体絵本です。考古学とは主に先史文化を研究対象とし、たくさんの専門用語と技術を含む学科ですが、本書は明快な表現を通じ、読者たちに考古学者が野外研究する過程を気楽に触れてもらう事ができます。

みなさんは「淡水ねえさん」と「八里にいさん」という人物たちと一緒に、考古学について学んでいきます。わかりやすい解説を通じて、考古学者の特質から現場の調査や古物の分類まで、きっと皆さん考古の面白さを知る事ができるでしょう。

最後に、本書がみなさんにとって考古を知るきっかけになり、この世界をもっと探索したいという知的好奇心で心がいっぱいになる事を祈っています。今度、台湾やほかの国の遺跡に行くチャンスがあれば、遺跡など、観察することをお忘れなく、遺跡に秘められた情報をよく考えてみましょう。

さあ、淡水ねえさんと八里にいさんと一緒に、考古の世界へ――

十三行博物館 館長

呉秀慈

# 目次

館長のまえがき……………3

目次……………5

考古学者とはこんな人……………7

「考古」って何をすればいいの?……………9

地層：時が見える……………11

考古の現場：発見されたものに秘められた情報……………13

発掘調査のステップ1：下見と計画……………15

発掘調査のステップ2：測量と定位……………17

発掘調査のステップ3：発掘……………19

遺物の整理……………27

年代の測定……………29

ストーリーテリング……………31

① 屈葬の分析……………32

② 埋葬の仕方……………33

③ 人骨による形質人類学研究……………34

④ 葬儀……………35

考古の過程……………37

「人面土器」を作ろう!……………40

ヒント……………42

Q&A……………43



# 考古学者とはこんな人

十三行博物館に依頼され考古に関する絵本を書くことになったので、今日八里の十三行遺跡を見に行ってきました。そこでうっかり発掘坑に落ちてしまいました。幸い、「淡水ねえさん」という考古学者に助け出してもらいました。

**考古学者の成分分析**

頭脳 65%  
 行動力 25%  
 + 運 10%

---

**100%**

**考古学とは**

発掘、測量、整理、分析を含む野外や室内での作業で先史人類の生活を探求する学科です。



**口**

話上手で考古に関する知識をうまく説明できます。

**両手**

手でものを発見したり、有意義なレポートを書いたりします。

**頭**

頭脳明晰で遺跡及び遺物に秘めた意義を判断できます。

**目**

鋭い観察眼を駆使し、手がかりを見逃しません。

**心**

考古に情熱を持ち、最後まであきらめません。

**両足**

台湾の遺跡を歩き回ります。(世界中の遺跡も歩き回りたい)

全然似てない!

キレイじゃないか。なにか文句でもあるの?



## 考古作業の現場

一万年ほど前、台湾にはすでに人が住んでいました。長い時の流れの中で、色々な時代の人々が、色々な遺跡を残しました。現在までに発見されているのは二千ヶ所以上。考古学者たちは過去の人々の生活を知るため、頑張って台湾全国で調査を行い、発掘しています。彼らの研究は、これからもみなさんに先史時代の台湾をより詳しく伝えていく事でしょう。

**好奇心な民衆**  
考古学者の仕事がよくわからなくて、色々な質問をします。しかし、絶対に試掘坑に足を踏み入れては行けませんよ。

**トランシットと箱尺**  
測量作業で使われている。

**日傘**  
日焼けを防ぐ。

**撮影する**  
試掘坑の平面図を描くためのテーブル。

**荷車**  
廃土を運ぶ。

**記録**

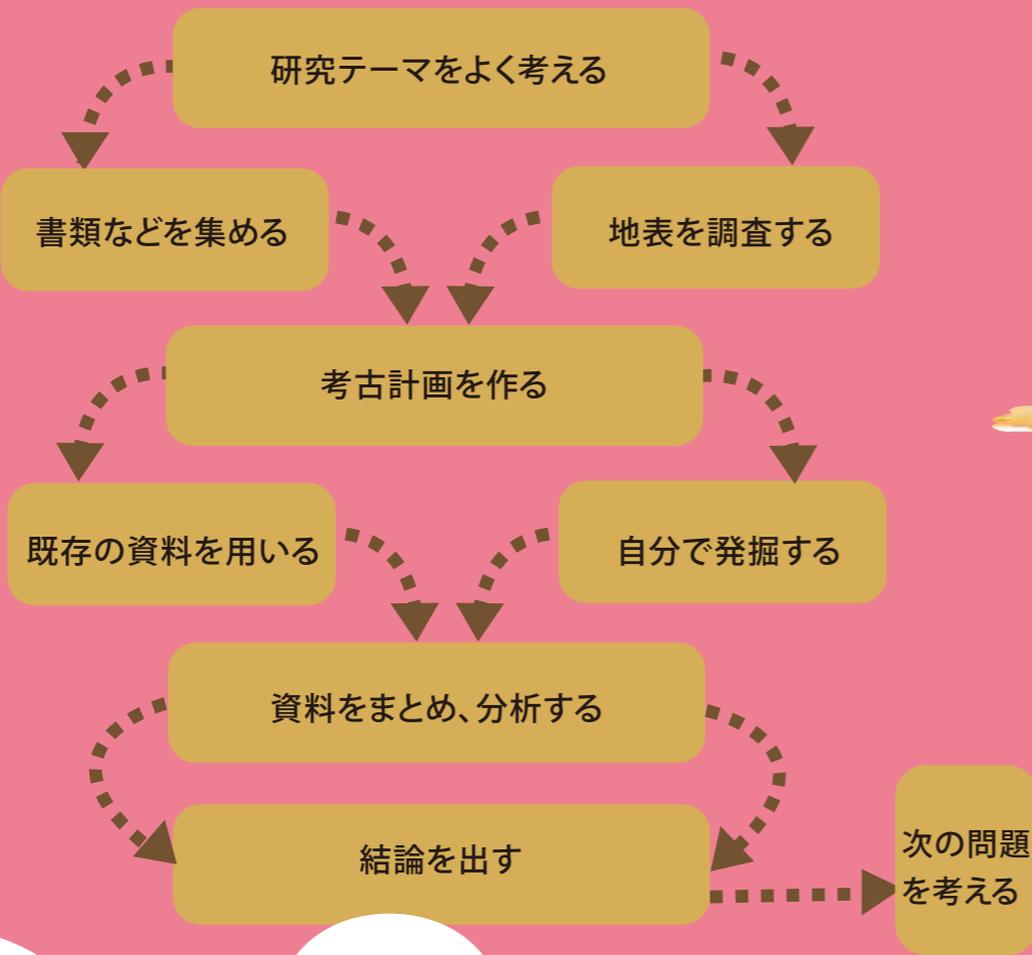
**古物集積所**  
発見された遺物を一旦集めておくところ。

**廃土**  
掘り起こした土は、後でしっかり元に戻しておく。

私がここに来た理由を説明したら、淡水ねえさんは十三行遺跡を案内してくれました。そして考古について詳しく紹介してくれました。

# 「考古」って何をすればいいの？

ただ掘るだけ？



見て、  
たくさんの段階が  
ありますよ！

## 遺物

古人が残したもの。  
例：土器、石斧、青銅器

## 遺構

古人の活動により形成  
された現象や建物の跡。  
例：家屋、石壁、お墓

## 遺跡

古人が住んでいた、活動したり  
していた場所で、色々な遺物、遺  
構が保存されているところ。  
例：十三行遺跡、圓山遺跡



左にあるものはどれとどれの点を結ぶ事ができますか？タイプが同じ物はどれでしょうか？  
実際に線をつないでみてください！



- 柱穴
- 石壁
- 十三行
- 土器の断片
- 石鎌
- 土器

- 遺物
- 遺構
- 遺址

えっと...「移籍」？  
「異物」？  
「行こう」？

「遺物」、「遺構」、  
「遺跡」、それぞれの違  
いを知っている？

やれやれ。

次は考古学における時系列  
を見よう。

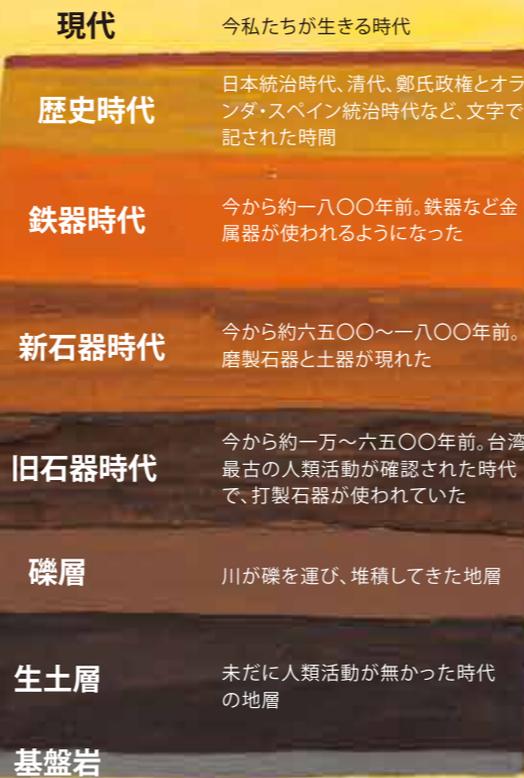
## 地層：時が見える



実際の地層

新しい

古い



考古学者から見る台湾の地層

だから僕は発掘調査と、ケーキを食べる時がとても似ていると思う。だってケーキの中の美味しいイチゴは、周りにあるクリームとケーキのスポンジを先に食べないと食べられないからね。



だからさ、地層とはブロックのように、下層にあればあるほど早い。



## 台湾の先史文化の順番



右にあるのは考古チームが発掘したものです。みなさんはそれを正しい地層とつなぐことができますか。

次に、考古学における空間関係について説明するよ。

## 考古の現場： 見されたものに秘めた情報

おお！

私たちが十三行遺跡で発見したのは：

- 1 大量の陶のかけらと、土器を焼くための窯(かま)の跡。
- 2 大量の煉瓦色の土器。表面には色々な図形の紋様がある。
- 3 上記の煉瓦色の土器以外、グレーブラウン色の土器も少々発見された。

遺構から古人の生活を再現することができるよ。例えば十三行遺跡で発見された柱穴の直径も深度も20センチくらいで、だいぶ砂地に分布している。しかし、十三行遺跡では、建材がまったく発見されなかった。

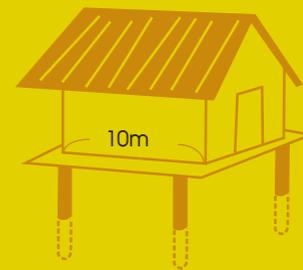
これでわかった？次は野外作業の現場に案内するよ。

よって、考古学者はこう推測した：

- 1 十三行の住人は野焼きで土器を作ることができた。
- 2 十三行文化は非常に良い土器作りの技術を持っていた。
- 3 グレーブラウン色の土器は外来品かもしれない。そこで、十三行文化とほかの地区とは交易活動を行ったことがあると推測できよう。

よって、考古学者はこう推測した：

- 1 発見されたものと、台湾の原住民の生活を参考にすれば、これらの柱穴は掘立柱建物を建てることによって残されたものと推測できる。
- 2 柱穴が砂地にある。砂の流動性が良好なため、柱穴の重なる具合で時代の前後を判断しにくい。だが、これらの建物は長10メートルくらいの長方形だと判断できる。
- 3 建材がまったく残されていないが、他の原住民が建てる掘立柱建物を参考すれば、十三行の住人はおそらく木など腐敗しやすい建材で家を建てるかと推測できる。



### 掘立柱建物とは

地面に柱を立て、地面から高いところに床を張る建物です。野獣の襲撃を防げるだけでなく、多湿な気候に住む住人にとって、とても適した建物でした。

### 文化層とは

地層というのは、各時代の層が重なることによって形成されるものです。先史時代の住人が遺物や遺構を同じ層に残したら、この層を「文化層」と呼びます。

# 下見と計画

発掘調査の第一歩は、資料を生かし、いい判断を下し、計画を立てることです。毎度の発掘調査には、大量の人手、時間と経費が要するため、最短時間と最小限の資源を用いて最大の成果を得ることは、考古学者たちが常に考える課題です。そこで、正式に発掘調査を始める前に、考古学者は下見や試掘などの作業を通して、資料の正確さを確かめます。そして、完備な発掘調査計画を立て、作業を順調に進ませます。

## 1 下見

調査地区の情報を読んだ後

地図



調査の範囲を確認

やった!  
土器の断片  
を見つけた!



調査範囲の地表を自ら探査



詳しく記録する

## 2 試掘

下見の結果により遺跡の  
範囲を判断



試掘の地点を決める

結果によって遺跡  
の状況を判断する



小面積で試掘する

## 3 計画

▲ 時間: 3月1日~12日  
(グループは3日、8日、9日に休む)

▲ 地点: 牛頭村シバラ遺跡

▲ 遺跡所在地地主

王家:  交渉済

柳家:  交渉済

バワン・マシャ家:  交渉済 (今度は手土産を)

▲ 宿泊: 牛頭村牛頭小学校教室  
校長: 林中正 TEL:1234-5678

▲ 交通手段: レンタカー三台と、知人から  
2台車を借りた(王君、呉君)

▲ 経費: 55万台湾元  
(国家科学委員会補助30万、県政府から10万、XX博物館から15万)

▲ 保険: アシスタントに請求

やらなくちゃならないことは  
山ほどあるな。夜に眠れるかな。

## 研究テーマ

シバラ遺跡と十三行文化及びケタガラン族との関係

## 研究目的と需要

研究方法:

1. 野外発掘調査
2. 室内での整理作業
3. 資料の分析
4. 報告書を書く

▲ 工具

つるはし6本、剣先スコップ10本、角型スコップ10本、  
鋤20本、ブラシ20本、金ごて20本、ちりとり40本、  
測量ポール2本、水準器、トレーシングペーパー、  
カメラ、荷車、ジッパーバッグ、おはし、  
水系、杭

これは  
私たちのリーダーのノ  
ートだよ。このリーダーのノ  
ートをしっかりと読んで考古計  
画を作る時は、なにが必要か、な  
にを考えておかなければいけ  
ないかをしっかりと覚えて  
おいてね。

## チェックボックス

### 「野外調査表」

野外調査で得た情報を詳しく載せる表。詳しくければ詳しいほど、まとめる作業は楽になる。

## チェックボックス

### 「古物発掘ライセンス」

発掘する前に、教育部(文部省)にこのライセンスを申し込まなければならない。勝手に発掘すると、「文化財保存法」に違反することになるよ。

# 測量と定位

発掘調査は「試掘坑」を単位に行われていきます。そこで、精密的なプランにより、試掘坑の位置を決めなければなりません。考古学者は発掘する区画について、大範囲に測量を行い、前述の下見の結果と合わせて、遺跡の中心または遺跡が密集する地域で基準点を定め、そこから各方向に試掘坑を掘ります。

## 1 地形を測量する



地形を測量してマッピングし、発掘区画と基準点をきめます。

## 2 基準点となる杭を打つ

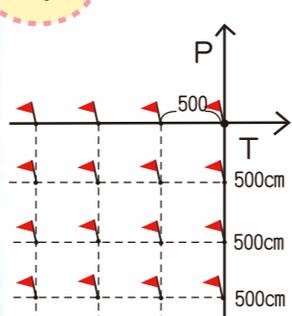


## 3 各試掘坑の位置とナンバーを定める

T1P3	T1P2	T1P1
T2P3	T2P2	T2P1
T3P3	T3P2	T3P1

架空の座標にて、横軸をTで、縦軸をPで表記する。順番ですべての区画を「TxPx」というブロックに分けます。

## 4 発掘のブロックを定める



4メートル平方の試掘坑を拓くため、基準点から巻き尺で500×500センチのブロックを定めます。

どうして500センチなのか？

## 使われるツール

トランシット  
方位を調べる



照準具  
タブレットに置いて、箱尺の位置と方向を確かめる



箱尺

水準器

箱尺と合わせて高度を調べる

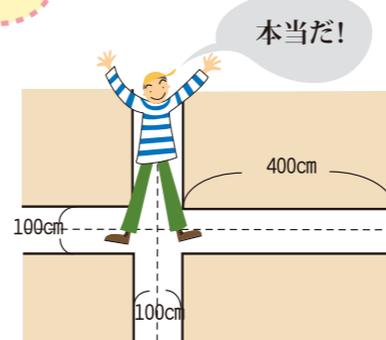


平板

測量と地形図を描くためのテーブルのようなもの。



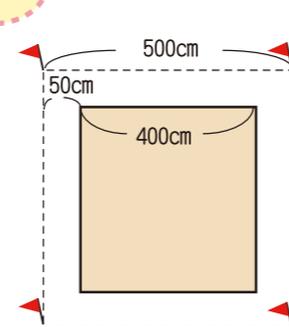
## 5 試掘坑を拓く



本当だ！

各ブロックの四辺をそれぞれ50センチ減ると、4平方メートルの試掘坑になるからだよ。

## 6 境界壁を残そう



そして、各ブロックの間に、1メートルの「境界壁」ができます。発掘作業をする時、境界壁で進出したり、廃土を捨てたりすることができます。

## 7 完了！

測量基準面

T1P2	T1P1
T2P2	T2P1
T3P2	T3P1



# 発掘



## 第一層：表土層

(地面以下約50センチ)

鋤で地面を整理し、つるはしで土を掘り、邪魔物を除きます。そして、遺物があるか気をつけます。無い場合、廃土を荷車で試掘坑の近くの空き地まで運びます。

### 発掘の原則

- 1 現れた古物や現象に気をつけること。
- 2 一定の深度(例えば10~20センチくらい)まで掘ること。
- 3 大切な発見を絵図や撮影で記録すること。
- 4 古人の生活を忠実に再現するため、各遺物や遺構が発見されるところをできるだけ詳しく記録すること。



廃土

## ツール



発掘とは、今の地表か

ら掘り下げること。浅い地層には現代の廃棄物や植物の根茎が散らばっている。発掘の速度をあげるのもいいけど、注意しなければいけないのは、常に古代の文化層まで掘り下げるのかに気をつけなくちゃ。



土の山

## 第二層：文化層上層

(地面以下約50~60センチ)

文化層上層まで掘り下げると、遺物が発見され、動植物の活動の跡も減っていきます。土の色も変わっていき、土質も堅くなっていきます。

遺物を発見したら、普段はプラスチックボックスの中に入れて、後でジッパーバッグに入れ、ナンバーをつけます。一層ごとに水準器で深度を測らなければなりません。

### ツール



発見した遺物を分類しジッパーバッグに入れて、バッグにナンバー、層位、日時とジャンルをつけます



土の山

### 第三層：文化層中層

(地面以下約60~70センチ)

この層に大量の遺物が発見されました。スタッフは遺物や遺構を破壊しないため、大型ツールの代わりに、角型ショベルと小型の鋤で発掘します。何かしらの現象(柱穴など)を発見したら、それぞれに記録し、測量し、絵を描いて撮影します。

### ツール



金ごて



ブラシ



竹ナイフ  
その柔軟さで細部の清潔ができる



ふるい



おはし

ふるい



遺物の密集しているブロックでは、誤って遺物を捨てないために、廃土をふるいにかけてます。



お墓と頭骨が現れる

多すぎて、  
きりがない!

境界壁の修整

おはしで色の変化をマークする

竹ナイフで  
細部の清潔をする

土器のかけら

土坑

そこを見て!  
頭骨を発見したよ。

日時:2003年2月1日

### 十三行博物館発掘記録表

遺跡名及びコード 十三行遺跡 (SSH)		P: 16		NW、SW、NE、SE	
試掘坑ナンバー T: 10		115センチ		発掘方法:人工層位 (10センチごと掘り下げる)	
層位		L 10		深度	
遺物類型		土器のかけら、ガラス玉		土器のかけら150本、ガラス玉15個	
遺物の数量		木炭		他の遺構など	
他の標本		木炭		詳しい説明:遺物が発見される範囲は西北角に集中する	



廃土を積み重ねて、発掘が終わったら試掘坑に戻す

### 第三層：文化層下層

(地面以下約70~80センチ)

遺物の発掘が完了したら、次に30~50センチくらい掘り下げます。もし遺物や遺構がない場合、また生土層にまで掘ったら、発掘作業を終わります。終わったら、試掘坑の撮影、平面図と断面図を描き、そして、人が転んで怪我をしないように、廃土を試掘坑に戻します。

### ツール



カメラ



ビデオカメラ



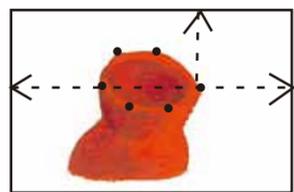
グリッド

遺跡略称  
層位  
現象番号  
(MまたはBlは  
お墓を指す)  
発掘日

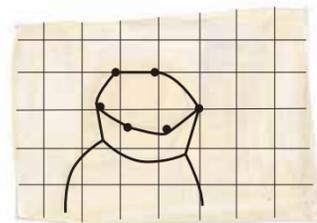
試掘坑号  
発掘序  
字の牌

SSH	-	4
T25	P16	
L10		
M227		
20030201		

### 平面図/断面図の描き方

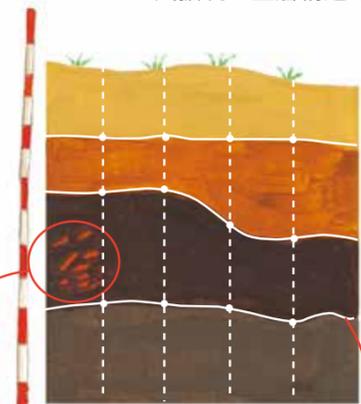


方眼紙に古物の平面図を描く



試掘坑の重層構造を断面図に描く

土器のかけら



境界線

重要な現象を撮影し記録する



尖ったほうは北

測量ポールを置いて  
遺物の大きさを測る

グリッドで絵図

断面図を描く

将来の記録や整理作業のため、  
撮影する時にプレートを置く

標本がこんなにたくさん...  
どうしよう?

大丈夫、後でちゃんと  
教えるね。

# 遺物の整理

## 1 分類

- 発掘区画に沿って区別する
- 発掘記録を参照し、類型と数を確認する



遺物の整理は時間と体力がかかる作業です。良好で確実な整理をすることによって、これまでの発掘作業を有意義にさせ、これからの研究を順調に運ばせます。整理にはいくつかのステップがあります：分類、洗浄、測量、書類の整理、復元、製図と撮影などがあります。一見楽に見えますが、すべての小さなかけらに一つ一つに含まれる些細な情報も、慎重に処理しなければなりません。たまに、中、大型の遺跡に関する出土資料の整理は、何年間またはもっと長い期間がかかりますよ。

やっと発掘が終わった！考古研究室に戻り遺物を整理しよう～

## 2 洗浄と乾燥

- 標本についた泥を洗浄しなければならない(慎重に洗浄しないと遺物を傷つけますよ)
- 乾燥させた後、元のジッパーバッグに戻す

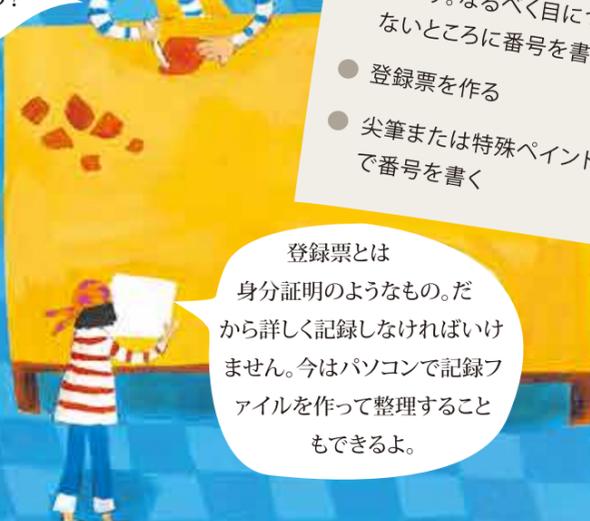


すべてのかけらに書くの？

## 3 番号付けと登録

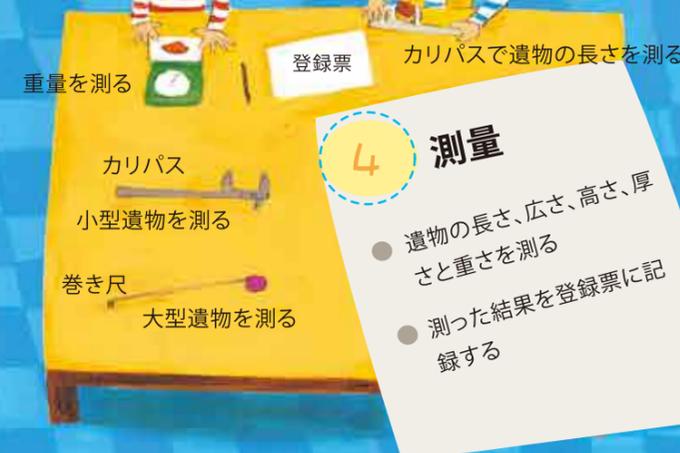
- すべての遺物に番号を付けます。なるべく目につかないところに番号を書く
- 登録票を作る
- 尖筆または特殊ペイントで番号を書く

登録票とは身分証明のようなもの。だから詳しく記録しなければいけません。今はパソコンで記録ファイルを作って整理することもできるよ。



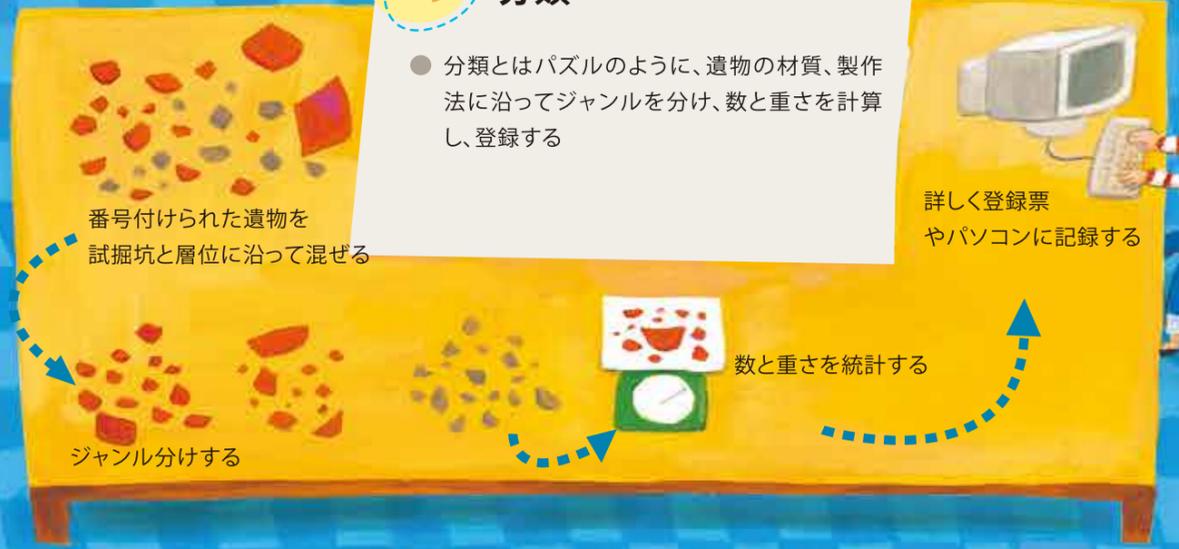
## 4 測量

- 遺物の長さ、広さ、高さ、厚さと重さを測る
- 測った結果を登録票に記録する



## 5 分類

- 分類とはパズルのように、遺物の材質、製作法に沿ってジャンルを分け、数と重さを計算し、登録する



## 6 復元、撮影と製図

- 同類のかけらを組み合わせ、遺物を復元する
- 撮影して記録する



一部の遺物、例えば衣服や木は、特別な方法で保存しなければなりません。そうでないとカビが生え、または壊れやすいですよ。

### 遺物プロフィール

名称	土器		
名称(英)	Pot		
シリアルナンバー	SSHMA000003		
登録番号	SSHMA2002001003		
材質	陶	重量	798.0g
サイズ	H23cm * W14cm		

遺跡名	十三行遺跡	文化	十三行文化
取得方法	発掘	試掘坑	T04P10
層位	L3	保存状況	復元済
特徴	ハンドル一つ、オレンジ色、丸形とドットの紋様がある		
採集日	2000年10月12日		
入館日	2002年5月25日		
ファイリングの日	2002年5月27日	抹消日	

## 年代の測定

遺物の整理が終わったら、考古学者は発掘した遺物の年代を測定しなければならない。測定の方法として、主に「絶対年代」と「相対年代」の二つがある。

### 絶対年代

#### C14 炭素年代測定

遺物に含まれる炭素標本の半減期を測定し、年代を判断する。

炭や骨の測定に向いている。

実験分析の条件は炭が汚染されていなく、炭素が足りている場合に適用される。

#### 年輪年代学

遺跡で発掘された年輪のある柱などの木造遺物を使用し、年輪パターンをパターンにより作成された標準年輪曲線と対照し、年代を測定する。

木材の測定に向いている。

まだ破壊されていない森の木のみが利用できる。台湾では、四季の違いが小さいため、この方法は使われない。

じゃあもっと詳しく説明してあげよう。

ああーっ、わからないな。

### C14 炭素年代測定について

数十万年以来、大気圏における炭素14の量は基本的に変わっていません。植物が光合成で大気中の二酸化炭素を吸収するため、生きている植物はすべて等量の炭素14をもっています。人類やほかの動物が植物を食べた後、体内の炭素14の量と大気における炭素14とは一定のバランスを保ちます。生物が死んだら、体内の炭素14は補充されなくなるので、炭素14は5730±40年の速度で半減します。そこで、古物の中の炭素の減少具合を測定する事ができれば、古物の主が死亡した年代を推測できます。例えば、ある古物の中の炭素14が25%減ったら、それは今から2865年前のものかもしれません。この測定法には特殊な機械が必要で、今から5~6万年以内の年代測定に最適です。



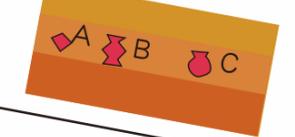
### 相対年代の判定方法

遺物の年代を判断するには、必ず遺物を実験室に送るだけでなく、地層の重層する特性を遺物データと対照することによって、遺物及び文化層の年代情報を得ることもできます。

#### 方法1

遺物の形が2000年前に台湾で流行ったと仮定する。

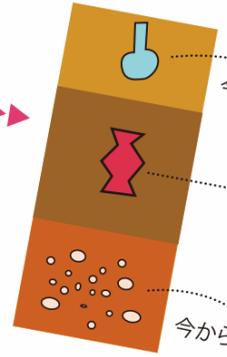
発掘した文化層にA、B、Cの三種類の遺物がある。



これらの遺物は約2000年前に作られたと推測する。

#### 方法2

年代がわからない文化層を発見し、上下にはすでに年代がわかる地層がある。



今から千年前

上下層の年代から、この文化層は今から2500~1000年前に形成したと推測する。

今から二千五百年前

なるほど。わかりやすいね。

そうですよ！私のわかりやすい説明のおかげよ。

# ストーリーテリング

発掘データを整理したら、  
古人の生活を知ることができるの？

考古学者は一見厳しそうだが、実際に、「物語を語る」能力を備えなければなりません。なぜなら遺跡で発見されたものから得たデータは少ないので、推測、志向する力も必要になります。実際の古人の生活様態を見るには、既存データから大胆に推測しなければなりません。

「論より証拠」。有力な証拠と合理的な推論によって、物語が出来上がりますよ。私たちは過去に戻ることができないので、推論の正しさを実証することもできません。考古学者が語る物語は、既存データをもとに、もっとも合理的な推断をすることです。データが増えるまたは新たな証拠が出現することによって、結論が変わるかもしれません。

まるで探偵のようだな。『名探偵コロン』みたい。だけど、考古学者たちは「...かもしれない」ばかり言って、ちょっと弱すぎるんじゃない？ 実例を挙げて思考の過程を説明すると助かるのだけれど...

もちろん違うよ。思考や推理を通さなければ、有意義な復元結果を得ることができない。

## 例1 屈葬の分析

じゃあ、十三行遺跡の屈葬を例にして説明しよう。

台湾海峡

膝は45度くらい曲がっている

ほとんどの死者は海または山に向いている

土器

ときどき副葬品のガラス玉や瑠璃玉が発見される

棺おけがなく、死者を包むものも一切なし

貝殻

食べ物が副葬品になるのはよくある

頭が西南に向いている

金のアクセサリーと唐、宋時代の貨幣がある

DATA:

十三行のお墓は、棺おけなしの屈葬です。十三行では、他界した親族の体を上図のように曲げて葬ります。なぜこのようにしたのか、今でも答えは分かりません。しかしながら、これは十三行文化の「文化的なユニークさ」でもあります。

このお墓から始めよう。何か特徴が見えるかな。



遺骸の姿勢はすべて屈葬だね。

その通り。彼らは死んだ後に人為的に体を曲げたのよ。



でもこうなったら棺おけに入れられないだろ。むしろで包むのにも無理があるね。

むしろや布などは保存が難しいので、埋葬された時にむしろで包まれたかどうかは確認できない。だが、彼らは棺おけを使わなかったことは分かっている。



じゃあ、どうしてこのように体を曲げて埋葬したのか。

文字記録がないため、今まで出土した資料によって彼らの考えを知るのには難しい。今、私たちはこれが彼らの「死に対する考え」の象徴だと踏んでいる。私としては、彼らが死を「休息」と考えたと思う。ほら、横向きで寝る人に似ているだろう。



私は、母のお腹の中にいる赤ちゃんに似ていると思う。

この骸骨をよく見て。肋骨のところにどこか違和感があるのね。



あれ。一本が擦り減っているように見えるけど…先史時代の人間も骨折するのかな。

そうね、これは彼らの勤勉さをあらわしているのよ。



片側でボートを漕いだり重荷を背負ったりしたのか。傷ついたりするのも無理はないね。

十三行遺跡で発見された骸骨は、背骨が左に歪んでいるのが多い。そして、彼らの右腕も左腕よりがっしりしていることから、右腕がよく使われていたことをあらわしているんだよ。



分かる分かる。背骨が左に歪みのは、ときどき右側に重量が集中していたからだね。それに、常に片手で田を耕したり、ものを叩いたりしていたから、右腕ががっしりしていたんだね。

そして、歯もたくさんの情報をくれるよ。主食の種類や年齢、そして飲食習慣などが判断できる。たとえばこの歯は欠けている。あきらかに食事が原因ではないね。



歯は便利なツールにもなるね。私の爺ちゃんは歯でピンを開けることができるよ。もしかしたら彼らも歯で網を編んだり糸を整理したりしていたかもしれない。

お墓の中に副葬品がたくさんあるね。財宝もあるよ。

間違っても何が正しいとは教えられないけど。

儀式については、やはり遺物だけで答えを見つけるのは無理だね。けど、こんな貴重品をお墓の中に入れることは、彼らが人の死を重視すると考えられるね。それとも死者は元々キレイな服を着ていたかもしれないよ。

死者が埋葬されたエリアはそんなに家から遠くない。おそらく彼らは死者の世界と残された人の世界はそんなに遠く離れていないと考えていたのだろう。

そういえば、一部の原住民も日本統治時代になる前から屈葬で死者を埋葬していたよ。この風習は先史時期から受け継いだものかもしれない。



これは現代と同じだな。でも、気になるところがある。今の葬儀にはちゃんと儀式があるけれど、彼らにも儀式はあったのかな。

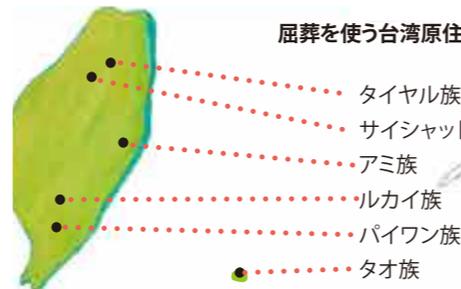


彼らが死者に多くの財宝をあげたのは、死後の世界で使わせるためだったかもしれないね。ほら、華やかな服を着る十三行人の想像図を描いてみた。



ああ、わかっている。パイワン族も先祖をリビングの真下に埋葬する習慣があるね。先祖を家の一部と思うってことだね。

屈葬を使う台湾原住民



描いてあげるね

1

十三行人の骨の傷と、発見された美しい土器などから見ると、彼らは働き者で、すでに「分業」という概念を持っていたと言えよう。言い換えれば、十三行人には、複雑な社会が形成されていた。

3

十三行人のお墓には豊かな副葬品がある。十三行人にとって、死亡とは単純に「死ぬ」ということではなく、来世で生活するようになるという意味を持つだろう。副葬品になった財宝や食物の量の違いから見れば、彼らには富による社会的地位の違いがあったろう。

素晴らしい! 私たちの考古チームに入らない?

2

遺跡から男女と子供の合葬墓が発見された。これは十三行人が一夫一婦制を取っていたことをあらわすかもしれない。

4

今の原住民には、十三行人に似ている風習や慣わしがある。関連させて調査をすれば、十三行人と原住民との関連性を見出すかもしれない。

これは十三行博物館で長時間勉強した成果だよ。

こんなにたくさんの資料を見てきて、何が分かったのかを教えてくれないか。

オッケー。今度は私が考古学者になってまとめよう。

# 考古の過程

1  
企画会議



2  
地表の調査  
と記録を作る

3  
地表を  
整理する

4  
測量と  
杭を打つ

5  
試掘坑の位置  
を定める

6  
発掘開始

7  
遺物の選別  
と細部の発掘

8  
記録する

9  
現象と断面図  
を描く

10  
撮影する

11  
洗浄と  
番号付け

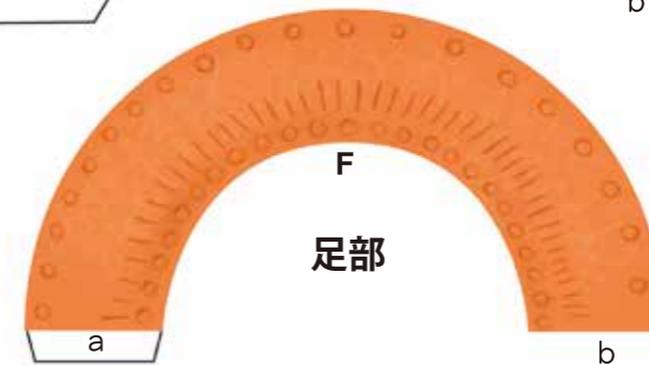
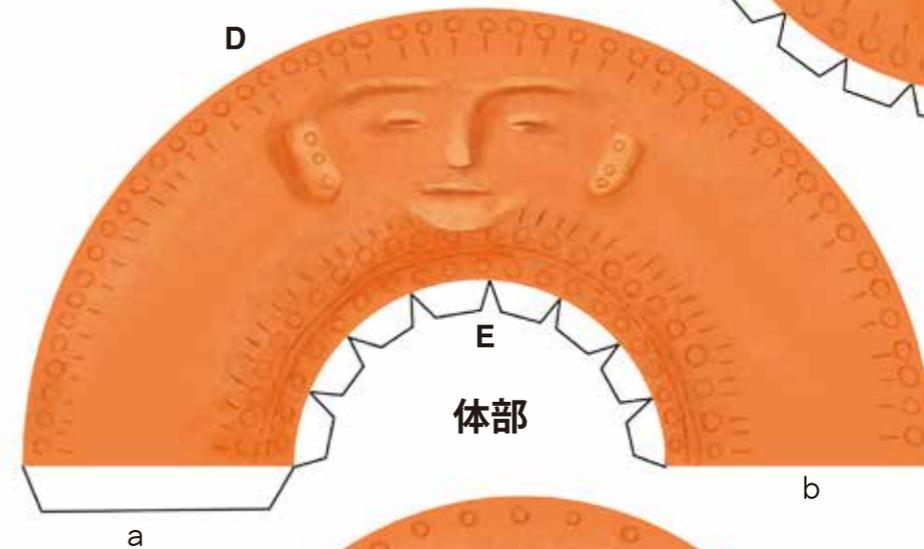
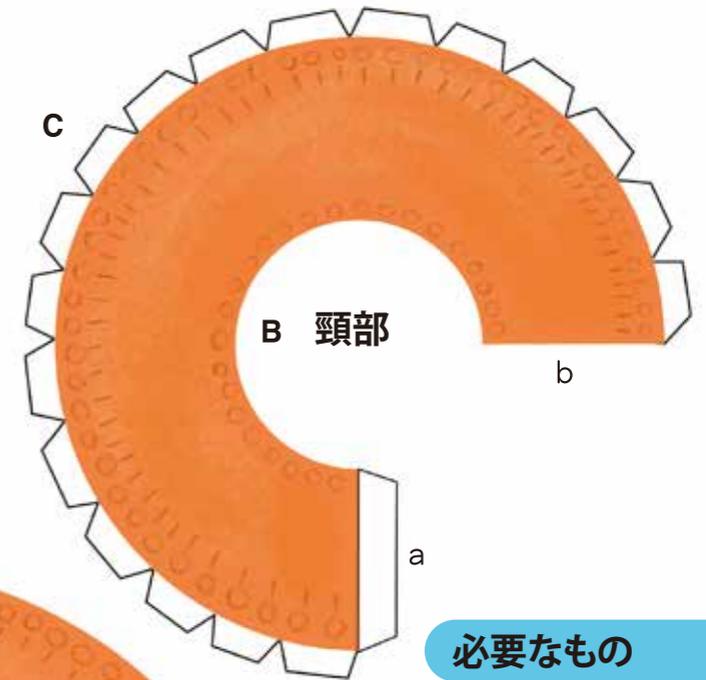
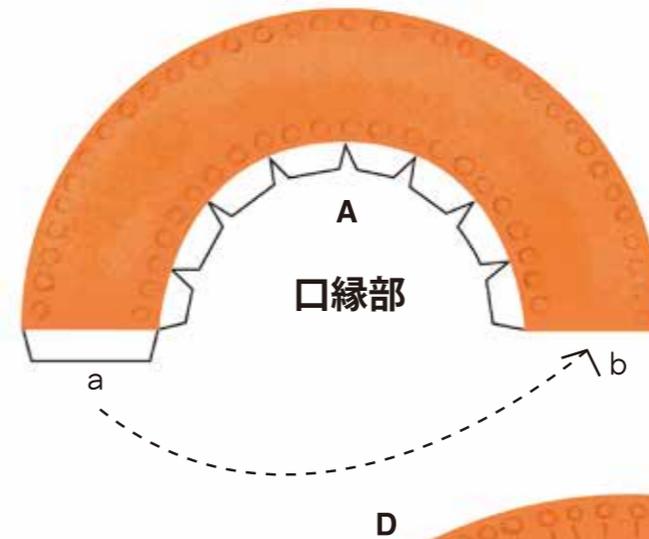
12  
登録する

13  
土器の復元  
と研究

考古作業の流れを覚えて  
いるかな。ここでまとめ  
てあげるね。



## 自分の人面土器を作ろう!



### 必要なもの

カッター  
接着剤  
ハサミ

### 作り方

1. 「口縁部」パーツのaとbを接着して、AとB(「頸部」パーツ)の裏側を接着します。
2. 「頸部」パーツのCとD(「体部」パーツ)の裏側を接着し、EとF(「足部」パーツ)をも接着して、最後に各パーツのaとbを接着すれば、人面土器が完成します。 40

というわけで、十三行博物館でいろんな勉強をして、一番好きなまたは印象に残ったのはどの古物かな。

えっと…「青銅刀の柄」が一番好きだけど、この博物館では「人面土器」を、あちこちで見る事が多かったなー。

実は、十三行遺跡で出土した遺物の中でも、土器が一番多かったんだよ。完全な状態で見つかったのは127個で、かけらは80~90万個もあったよ。すごいだろ!

……………

この数を見ると、土器が十三行人にとってどんなに大切なかが良くわかるよね。

それはわかるけど……。

う〜ん…知らない…。

じゃあ、十三行土器の特徴を言ってごらん。人面土器を例にしてみて?

じゃあチャンスあげるね。次のページで人面土器のペーパークラフトを作らせる。ディテールを観察するのは忘れないでね。

よし、作った後にまた討論しよう。

# ヒント

## 土器各部位の呼称



## 色々な土器の呼称



やるじゃない!結構  
詳しく観察したね。



## 十三行人面土器観察ノート

- 面: 目が細く、口が開き、表情が柔らかい。
- 色: 赤橙。
- 紋様: 円形とドット。
- その他: ハンドル一つで、細い腰部と高い鼻がある。

よし。じゃあもう少し質  
問するぞー。

当たり前だよ。  
色々勉強したしね。

かかってこい!

遺跡や特殊な古物を発見したら誰に教えるのかな。そしてどう処理するのかな。

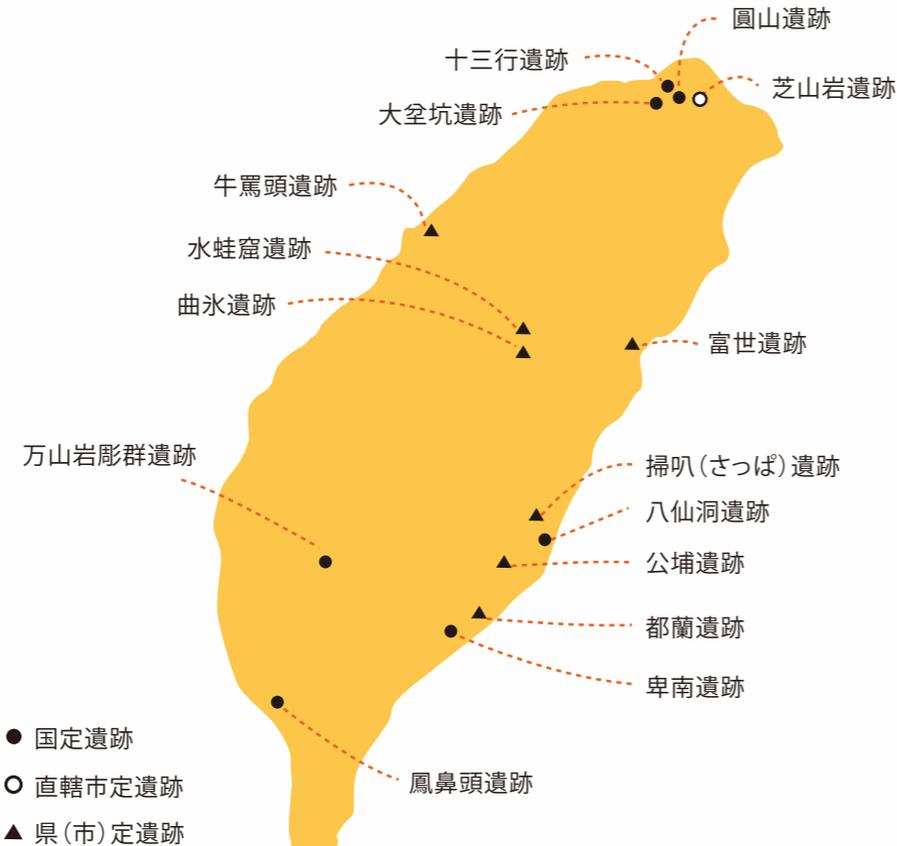
遺跡は関係当局により管理され、保護されている。遺跡や古物を発見したり、誰かが遺跡を破壊することを目撃したら、当地の警察機関や県・市政府民政局民俗課または文化財課に通報する。また、関係学術機関、例えば中央研究院歴史言語研究考古学門、中央研究院考古学専門研究センター、国立台湾大学文学部人類学科や関係博物館などにも通報できます。遺跡は「文化財保存法」の保護対象なので、誰でも破壊行為をしている人を通報できるよ。

遺跡に対して、ほかに何ができるのか。

遺跡とは公共財でもあるため、大切にすること以外、博物館を見学し考古に関する知識を学ぶこともできる。

やるじゃない!では、今、台湾にどんな重要な遺跡があるのか知ってるかな?

台湾で発見された遺跡は約二千箇所くらい。国定、直轄市定、県(市)定の三つのクラスがあります。このノートを見ればわかる。



本当によく勉強したね。では最後の質問。台湾では今、どの考古博物館があるのかな。

北部には新北市立十三行博物館があり、東部には国立台湾先史文化博物館がある。

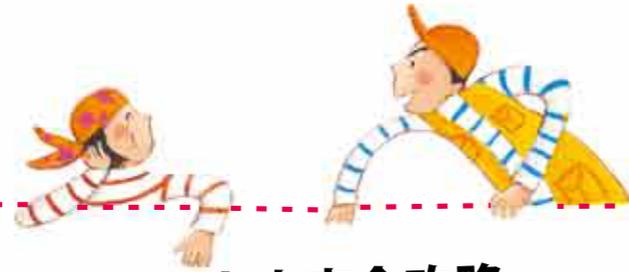
この二つの博物館以外にも、数箇所の陳列館があるよ。例えば中央研究院の「歴史文物陳列館」、そして国立台湾大学文学部人類学科の「考古学陳列室」と、台北市の芝山岩展示館、圓山展示館などがある。博物館に比べて規模は割と小さいけど、遺跡の保護及び教育にとって大切な資源なんだよ。

ここで列挙された本を読んでみてね。考古学者になる資格を手に入れるのよ。

…おお!

### 参考書目

- 『八里十三行の先史文化』漢聲出版、1995
- 『台湾における先史文化と遺跡』劉益昌著、台湾省文献委員会、台湾史跡源流研究会、1996
- 『遠古台湾物語』呂理政著; 呂理政、夏麗芳イラスト、南天書局、1997
- 『センちゃん、考古を学ぶ』劉克竣著; 李漢倫イラスト、行政院文化建設委員会、1997
- 『台湾における先史時代の人間』劉克竣著; 邱千容、林致安イラスト、行政院文化建設委員会、1997
- 『台湾における考古』臧振華著、行政院文化建設委員会、1999
- 『卑南文化人の生活』楊淑玲著; 邱千容イラスト、国立台湾史前文化博物館、1999
- 『人面土器のお家』瞿海良著、台北県立十三行博物館、2001
- 『十三行における先史の住人』臧振華著、台北県立十三行博物館、2001
- 『史跡の源を探ろうー歴史考古ファミリーガイド』翟振孝、林仲如著、国立歴史博物館、2002
- 『フィールドノート:日本の遺跡と博物館』林明美著、台北県立十三行博物館、2003



## 考古完全攻略

發行者：吳秀慈

著者：邱千容、邱宝玲

訳者：陳鋼

審査委員：邱鴻霖、游貞華

編集長：岳彩琨

企画担当：楊鈴慧

執行編集：邱千容、邱宝鈴、葛禎琍、胡育寧、蔡易軒

主催者：新北市立十三行博物館

台湾新北市八里区博物館路200号

電話 (886) 2619-1313

FAX (886) 2619-5234

<http://www.sshm.ntpc.gov.tw>

表紙/美術デザイン：邱千容

挿絵画：邱千容

印刷所：台湾身体障害者福祉推進黨

發行日：2014.11

定價：NT120元

ISBN:

この本を読んで、君は  
考古学のことがよく分  
かっただろう!

はい!

